

2018年7月1日

旧渡辺甚吉邸解体保管検討委員会

(構成メンバーは2頁_資料1の関係者一覧を参照)

前田建設工業株式会社

代表取締役社長

執行役員社長 前田操治 様

在港区白金・旧渡辺甚吉邸除却予定に伴う緊急解体と一時保管要望書

旧渡辺甚吉邸の緊急解体と一時保管事業の主たる実行者としての参画願い

旧渡辺甚吉邸（昭和9年竣工）は、経済的繁栄期、構成的建築空間、再現困難な高い装飾技巧、建築主・設計者・施工者らの歴史的 position 付け、そして奇跡的とも言えるほぼ完全な残存状況にかんがみて、日本近代住宅建築の最高水準を体現する唯一屈指の作品であります。このたび同建物が現土地所有者によって除却予定であることを伺いました。現地保存活用が叶わないのならば、必要な調査と共に解体し、後世の活用を願い建築部材を保管しておくことが、次善の手段であります。文化事業に格段理解のある貴社に強くこの事業への参画をお願いする次第であります。

旧渡辺甚吉邸について

本建築は銀行業を営む岐阜・渡辺家の14代となる渡辺甚吉氏の私邸として、戦前日本の経済繁栄期に建設されました。同郷出身の建築家・遠藤健三（早稲田大学建築学科卒）を伴い欧米見聞を行なった後に、チューダー様式に基づき遠藤が設計し、照明器具などの細部装飾を早稲田大学教授の今和次郎に依頼し、かつ全体的な計画を明治後期より洋風住宅の啓蒙とその普及に尽力していたあめりか屋の技師長・山本拙郎（同学科卒）が担当しました。その後旧スリランカ大使館、貸結婚式場として使い続けられ、現在まで当初の姿を奇跡的に留めています。また同作品は考現学者今和次郎の数少ない彼の高品質の装飾を確認できる最重要作品です。特に以下の傑出点から同建物は後世に伝えられるべき珠玉の作品です。

- 1) 国内の数少ない本格的チューダー様式であり、細部装飾に極めて高度な技法が用いられている。
- 2) 基本計画から細部計画に至るまで当時の日本の住宅建築の最高水準の経験、知見が投入されたこと。
- 3) 大切に使われ続け特徴ある装飾を含め当初からの姿がほぼ完全に保たれていること。
- 4) 関連文献や調度品が残され、多くの紹介書、客観的な文化価値が豊富であること。

解体保管後の予定

解体保管後の部材の所有を前田建設工業株式会社に移管した後、様々な事業の起案に活用が可能です。

- 1) 貴社保養所、ゲストハウス等での利用
- 2) 特に貴重な室内装飾を用いた内装空間への活用
- 3) 篤志団体や当時の関連業者に呼びかけた再生活用のための新規プロジェクト

本委員会はそれらプロジェクトに対して、専門的見地からの協力を惜しみません。再現不可能な当時の日本の建築業者らによるモノづくりの貴重な物証をぜひご活用ください。

旧渡辺甚吉邸をめぐる人々のことなど 内田青蔵（神奈川大学教授・建築史）

旧渡辺家は岐阜の名望家で、渡辺家を継ぐ甚吉の結婚後の新居を、早稲田大学から当時の著名な住宅専門会社「あめりか屋」を経て、故郷の岐阜で建築業を開業した若き建築家・遠藤に依頼した。遠藤は、設計にあたって渡辺甚吉と一緒に欧米視察を行い、モデル探しを行ったという。その際、購入したイギリス住宅やチューダー様式の書籍も現存し、こうした書籍を参考にしながら念入りなデザインの追求がなされた。

大任を果たすため、遠藤は大学時代の恩師と先輩である今和次郎と山本拙郎に設計協力を求めた。恩師の今は、早稲田大学では最も若い教員で、兄のような存在でもあったし、山本は在学時代からの憧れの存在で、遠藤が卒業後の勤め先として「あめりか屋」を選んだのも山本の存在が大きかったようである。

改めて、山本拙郎に触れると、山本は学生時代に洗礼を受けるなどクリスチャンとして知られ、人間的にも寛容で、卒業設計のテーマも教会堂で、卒業後にその計画は富士見町教会として実現したといわれている。ただ「あめりか屋」という企業の中で活躍したため、山本の作品として知られる事例は極めて少なく、この旧渡辺邸が唯一確認できる貴重な遺構となる。

また、今和次郎は、民家研究や考現学に象徴されるように、山本同様に日常生活を大切にしたデザイナーでグリルや照明器具、さらには食器類のデザインも担当するなど、この三名がそれぞれの役割を担い完成したものがこの住宅であった。住宅の様式は、チューダー様式を基調にしたもので、そのデザインは明治以降に導入されてきた欧米建築の粋を集めた総決算というべき高度の質を備えている。特に、このチューダー様式は、その柱梁を露出させて装飾的に用いる外観が日本の住宅にも似ており、明治期以降わが国で、最も親しみを持って採用されてきたものである。

ただ、旧渡辺邸のハツリ仕上げや装飾、そして複雑な空間構成を見ると、歴史的なチューダー様式を取り入れつつも、近代にふさわしいモダン・チューダーとも呼ぶべきものへの転換が意図されているように思える。これは、まさしく今和次郎が中心となり、山本と遠藤で作り上げた新様式のように、このことがこの建物の最も本質的で貴重な評価部分になるだろう。いわば、この建物が残るだけで日本の近代住宅建築の歴史は残っている。そのような他に例を見ない作品であることは間違いない。

基礎情報

旧渡辺甚吉邸（旧スリランカ大使館、前白金甚夢迎賓館）

竣工：1934年（昭和9年） / 所在地：東京都港区白金台 / 設計：遠藤健三、山本拙郎（装飾：今和次郎） /

施工：エンド建築工務所 / 構造：木造2階建て。地上二階、地下一階、建築面積約200平 /

現状所有者：住友不動産（同建物建屋についてはすみやかに除却予定）

資料 1__旧渡辺甚吉邸解体保管検討委員会 関係者一覧

2018 年 7 月 1 日

作成：須崎文代（神奈川大学）、栗生はるか（法政大学）

◆旧渡辺甚吉邸解体保管検討委員会委員（五十音順）

内田 青蔵 神奈川大学 教授・住宅史
 金谷 匡高 法政大学 博士課程・建築史
 栗生はるか 法政大学 教務助手・建築家
 須崎 文代 神奈川大学 特別助教・住宅史
 高道 昌志 首都大学東京 助教・都市史
 高村 雅彦 法政大学 教授・都市史
 津村 泰範 長岡造形大学 准教授・保存技術
 中谷 礼仁 早稲田大学 教授・建築史
 政本 悠紀 早稲田大学 O B（2017 年度修了）
 三浦 清史 こうだ建築設計事務所・建築家

◆賛同 建築史学会

Society of Architectural Historians of Japan
 〒113-8656 東京都文京区本郷 7-3-1 東京大学工学部建築学科建築史研究室気
 Tel&Fax: 03-5841-7459 Mail: office@sahj.org
 Website: <http://www.sahj.org>

◆賛同者（抜粋、五十音順）

伊藤 大介 東海大学・教授
 伊郷 吉信 自由建築研究所代表・建築家
 井上 祐一 NPO 法人有機的建築アーカイブ副代表理事
 内田 祥哉 東京大学・名誉教授
 大野 敏 横浜国立大学・教授
 加藤 耕一 東京大学・教授

金出ミチル 文化財建造物保存技術協会
 河田 克博 元名古屋工業大学教授・建築史研究者
 木下 壽子 住宅遺産トラスト
 後藤 治 工学院大学・教授
 小林 裕幸 文化財建造物保存技術協会
 陣内 秀信 法政大学・特任教授
 傍島 利浩 建築写真家
 田路 貴浩 京都大学・教授
 永井 康雄 山形大学・教授
 野口 昌夫 東京藝術大学・教授
 野村 涉 早稲田大学・O B（2017 年度修了）
 平井 ゆか 建築史家
 平山 育男 長岡造形大学・教授
 藤井 恵介 建築史学会会長、東京藝術大学特任教授、東京大学名誉教授
 藤川 昌樹 筑波大学・教授
 古谷 誠章 早稲田大学教授、日本建築学会会長
 増井 正哉 京都大学・教授
 溝口 正人 名古屋市立大学・教授
 吉見 千晶 住宅遺産トラスト
 山岸 常人 京都大学・教授

 輿石 直幸 早稲田大学建築学科教室
 後藤 春彦 同上
 小松 幸夫 同上
 長谷見雄二 同上
 藤井 由理 同上
 古谷 誠章 同上（前掲）
 矢口 哲也 同上
 渡邊 大志 同上

以上